

研究の概要

進行性核上性麻痺は転びやすい 飲み込みにくいなどの症状がみられる。現在、水分でむせりがあり、嚥下機能評価が必要であると考え。また、自力摂取しているが、一口量が多くなったり、かきこむ様に食べる様子があり、窒息や誤嚥のリスクがある。そのため、嚥下機能に合った食内容、食事摂取方法の検討を行い、安全に食事摂取ができる方法を明らかにすることで、ADL QOLの向上、看護の質の向上に繋がると考える。

研究期間

承認日より2023年2月28日まで

研究機関の名称及び研究機関の長

独立行政法人国立病院機構山形病院
院長 川並 透

研究責任者の氏名

看護部1病棟
看護師 押野 健大

オプトアウト

特記なし